



平成30年 1月の園だより



乳児期に育みたい力

新しい年が明け、晴れやかな気持ちで新年を迎えられたことと思います。

ちょっぴり長いお休みでしたが、子どもたちは、保育園に来られるのを待ってましたとばかりに元気いっぱいです。そしてもう一つのお家に帰ってきたかのように、どの子もリラックスして自己主張をしています。今年度はあと3か月、1, 2, 3月と子どもたちと過ごす毎日を大切にしていきたいと思っています。

園では今年度も、広島県と広島市が実施する子育て支援員養成講座の実技として、12月と1月に受講者の実習を受けています。社会の方が中心で、近年の社会情勢や、子どもの発達、保護者の方の相談業務などを学んで、保育所や子育て支援センターなどで、子育て支援事業に幅広く活躍していただくことをねらいとして行われているものですが、その実習生の皆さんが、「みみょうの子どもたちはのびのびとしていますね」「毎日、好奇心にあふれていて、楽しそうですね」などと言ってくれています。そして中には、「子どもたちはあそびの場面で、しっかり物事を考えていますね」と、2歳児クラスの子どもの姿を見て言われた人がいました。

「たとえばどの場面で感じられましたか?」と言う私の問いに、その方は、「公園で、ダンボール箱で遊んでいる時、いろいろな箱を組み合わせて、ただ積んでいるだけかと思ったら、『おたんじょうびのけーきができた!』と言って、担任の先生を誘ったりしていました。ちゃんと『〇〇を作ろう』と目的を持って考えながら箱を組み合わせて遊んでいるんですね。」と2歳児でもしっかり考えて遊んでいることに驚かされていました。

広島県は昨年、乳幼児の教育・保育の基本的な考え方や具体的な施策についての取り組みを「遊び 学び 育つひろしまっ子!」と

題してすすめています。その中で「感じる・気付く力」「うごく力」「考える力」「やりぬく力」「人とかかわる力」の5つの育みたい力を目指す乳幼児の姿としています。

0. 1. 2歳の乳児期にあつては、様々な物やあそびにまず、「これなんだろう?」と気付き、次に「おもしろそう!やってみよう!」と心を動かし、好奇心を持ちます。赤ちゃんたちはもともと好奇心に満ち溢れているのですが、この「なんだろう?」「やってみよう!」と言う気持ちを1. 2歳でも、とても大切に、園ではさまざまなあそびや環境を用意しています。この繰り返しの中で五感を使って感じながら遊び、次第に3歳ごろになると、「こうしてみたらどうなるかな?」「つぎは〇〇してみよう」などと工夫したり、目的を持ったりして考えながら遊ぶようになるのです。公園で遊んでいた2歳児クラスの子どもの姿がしっかり考えながら、イメージを持って遊んでいた姿は、やはり0歳からのあそびの経験が活かされているのだと嬉しくなりました。そしてこの姿は4. 5歳になって、うまくいなくても根気よく挑戦したり、それを友だちや仲間と協力してやり遂げるようになっていく姿(「やりぬく力」「人とかかわる力」)へと成長していくのです。さらに人とかかわることが楽しくなるとまた、なんにでも興味がわき、感じる・気付く力となり、5つの力が循環し、子どもたちはのびのびと主体的に育っていきます。まずは、好奇心を持って「なんだろう?」「やってみよう!」と全身で遊べる毎日であること、これが安心できる大人(園では保育者)の見守りの中で満足するまでできるような環境でありたいと思っています。

日頃より園にご理解とご協力ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。 園長 原 沢子

子育て応援メッセージ

たんぽぽの綿毛を吹いて見せてやる
いつかおまえも飛んでゆくから



いつかは産み育んだ自分の手の中から、外の世界へ旅立ってゆく我が子、それを送り出す日が確実に来ることを知っている母親の、切なくも誇り高い気持ちを詠んだ歌です

子育て歌集 「タンポポの日々」 著: 俵 万智 小学館

成人の日 1月8日

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い、励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年(2000年)から1月の第二月曜日に定められました。民法では、「満二十歳ヲ以テ成人トス」とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。

わが国では古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着といいました。まだまだ成人には年月がかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人できるよう、私たち大人が毎日明るく、前向きな姿を見せていきたいものです。



十二支の由来



ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。

とんど祭り

小正月の行事で、正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを、長い竹、萱、藁などを組んだものに飾り付け、燃やすという、日本全国に伝わるお正月行事です。また、残り火で餅や、団子を焼いて食べると、その一年元気で過ごせるといういわれがあります。

今年も、東雲本町公園で8日(月)に行われます。

ご家族で、お正月の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。

消さないで あなたの心の 注意の火



広島市南消防署 警防課 救助係